

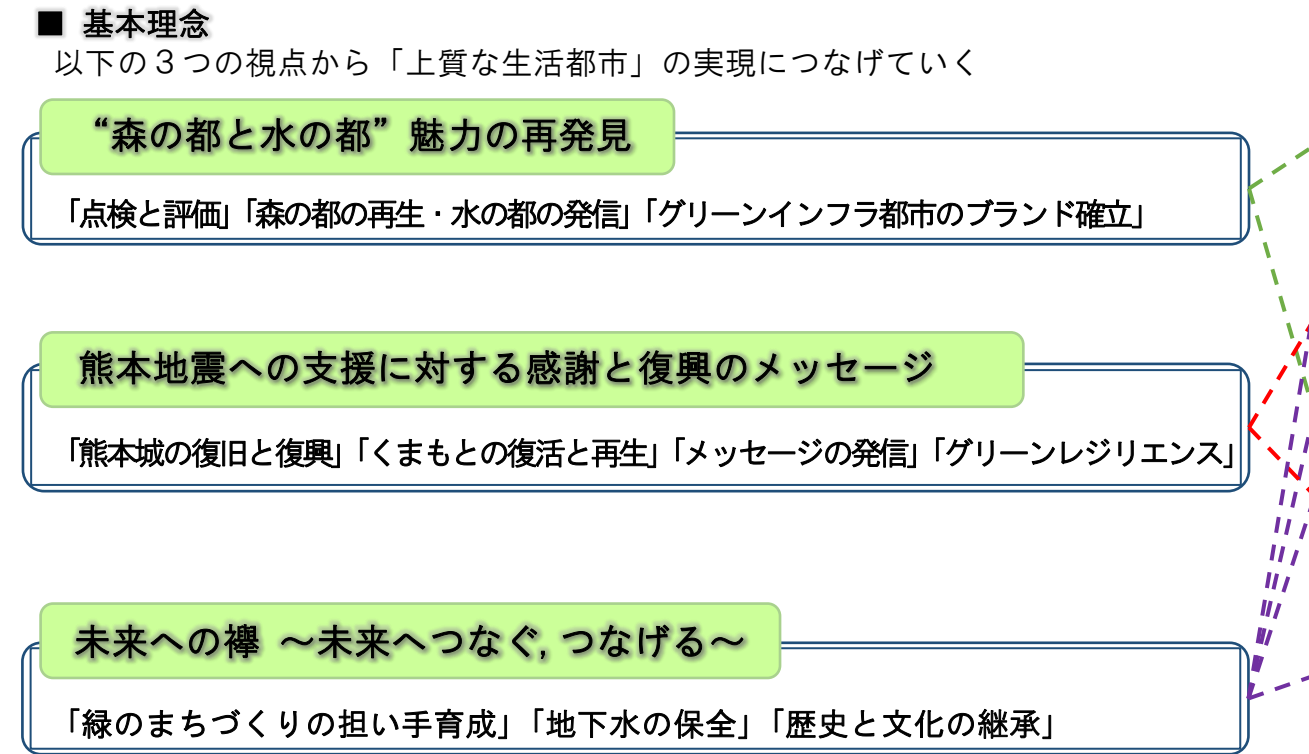
1 開催の意義

- 『熊本の緑と水』の継承と発展
- ・ “森の都” “水の都” と形容される美しく豊かな自然環境の継承
 - ・ めぐみ豊かな自然環境の魅力を活かしたまちづくりの展開
- 『協働と担い手づくり』の醸成
- ・ 多くの市民や企業等の参画と協働による緑のまちづくりの推進
 - ・ 将来の緑のまちづくりの担い手となる子どもたちを育成して豊かな自然を次世代へ継承
- 『防災・減災』のまちづくり
- ・ 緑や水を活かしたグリーンレジリエンスの向上
 - ・ 公園などのオープンスペースにおける防災イベントを通じて防災意識を向上
- 『熊本地震からの復興』の発信
- ・ 熊本地震から力強く復興する “くまもと” の発信 ～熊本からのメッセージ～
 - ・ 震災から5～6年を迎えての新たなステージへの展開

2 開催テーマ

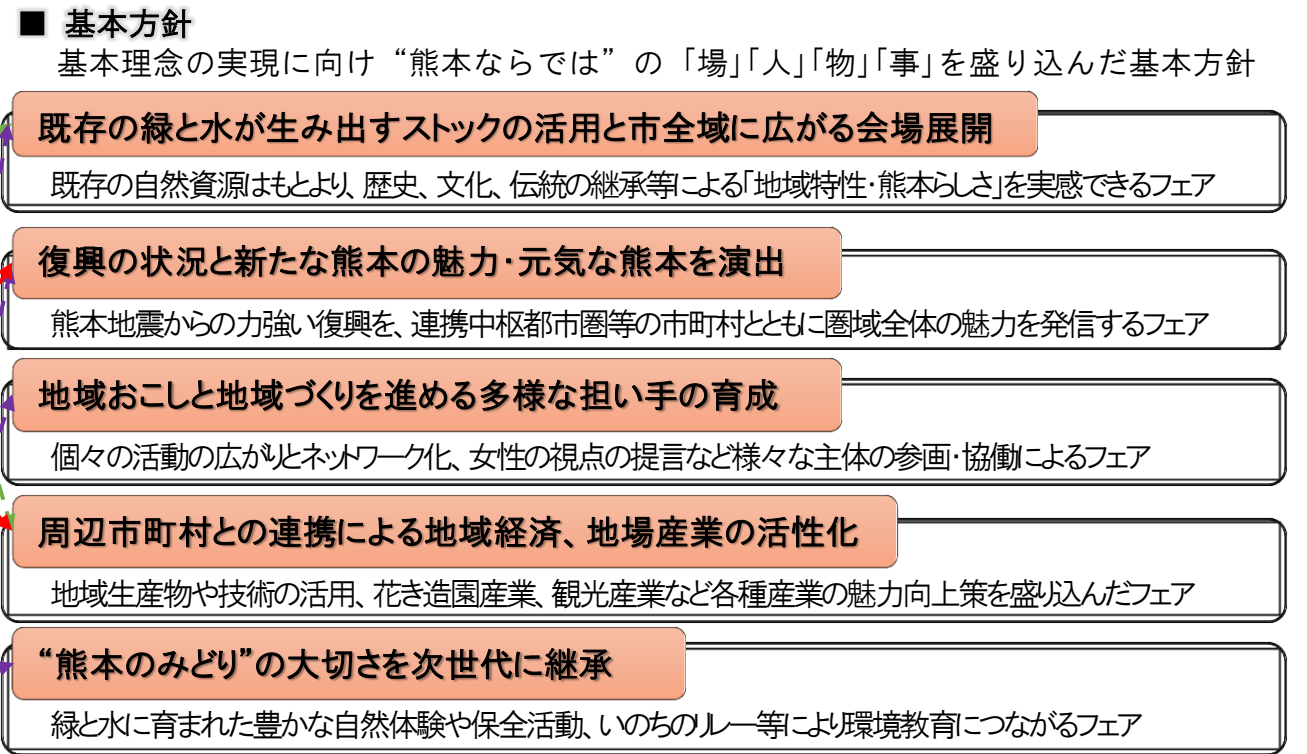
(1) 統一開催テーマ	『緑ゆたかなまちづくり』 ～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～
(2) くまもとフェアのテーマ	「森の都の再生・水の都の発信」「復興と防災」「緑を繋ぎまちを彩る文化的要素」「担い手の育成」等のアイデアを持ち寄り、基本構想検討委員会等の議論を踏まえ基本計画で定める

3 開催の基本理念・基本方針



4 開催の基本的事項

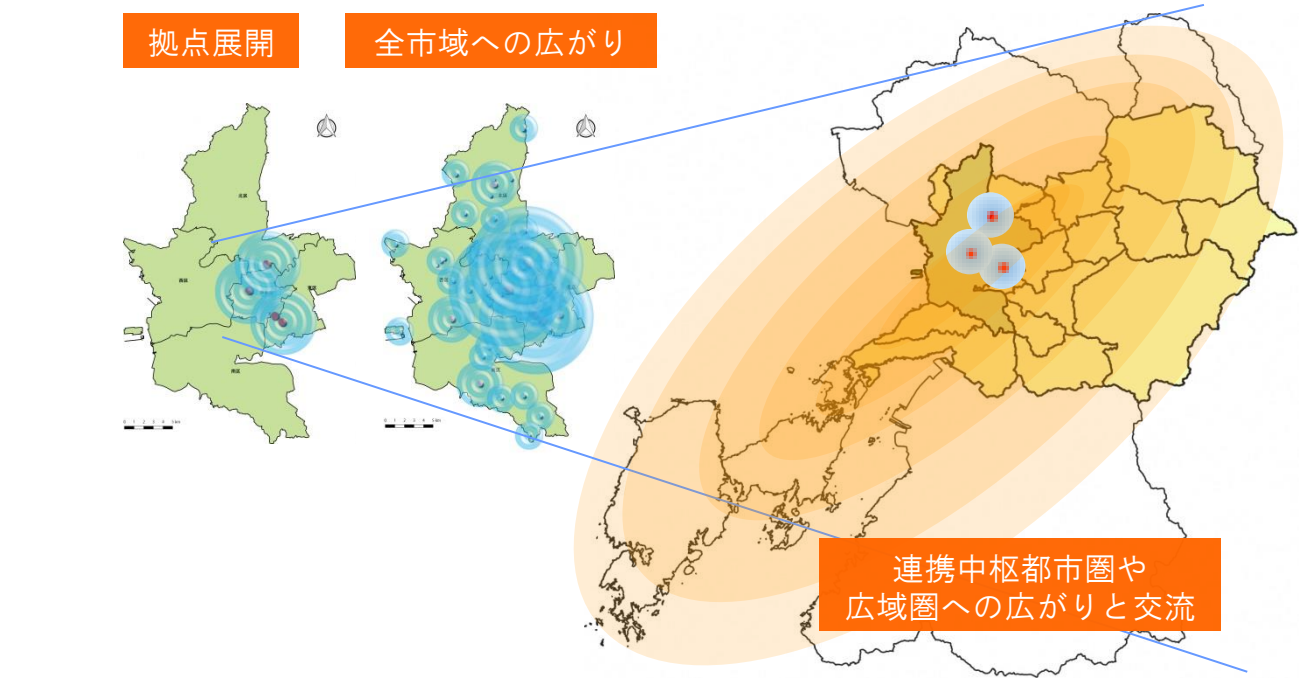
(1) 主催者	提唱：国土交通省 主催者：熊本市、（公財）都市緑化機構
(2) 開催時期	2022年春の2カ月程度（3月から5月頃）
(3) 会 場	<ul style="list-style-type: none">● メイン会場 街なかエリア：「熊本城公園及びシンボルプロムナード一帯」 水 辺エリア：「水前寺江津湖公園一帯」（水前寺地区～広木地区、動植物園含む） まち山エリア：「立田山」● パートナー会場 フェアの多様な参画主体「フェアパートナー」による運営を基本とする会場 ※ 具体的な会場については今後調整・ 連携中枢都市圏（16市町村）等との連携による会場・ 交通拠点（熊本駅、熊本空港※、熊本港）・ その他 ※熊本空港：2020年度から民間（運営）委託
(4) 入場料等	会場等は無料を基本とする（動植物園や熊本城については今後検討）
(5) 目標入場者数	会場条件、事業内容、交通対策等を勘案して基本計画で設定
(6) 愛称・シンボルマーク	基本計画以降、開催テーマを象徴し、熊本らしく、市民に親しまれるものを設定し、広報宣伝等に活用する。



5 会場計画

- **メイン会場を中心に多元的で回遊性がある会場構成**
- 熊本の特徴ある資源・資産をより多く取り込み、市内及び周辺市町村の随所で「くまもとフェア」を実感し楽しみ、次の会場を訪れたくなるような多元的で回遊性がある会場構成を展開する。
 - 連携中枢都市圏に限らず、県内各地の名所とも連携し、グリーンツーリズム等による自然と文化、都市と農村等をテーマに人々との交流を活性化する。

名称・区分	概 要
メイン会場： フェアの理念や方針を表現し、熊本の緑を発信する拠点	
＜街なかエリア＞ 熊本城公園 及び シンボル プロムナード 一帯	《会場コンセプト：～新しい都市空間の創出～》 『“くまもと”の歴史・文化と生まれ変わる緑と水と花のまち』 《展開イメージ》 ➤ 緑の記憶を実感し新たな賑わいによる熊本の緑と文化が醸成する会場として緑と文化をテーマとした展開
	<div><div><div>・熊本城の復旧過程の公開による復興の発信と熊本固有の文化、造園技術に触れることで、歴史、伝統文化の継承につなげる</div><div>・熊本の花文化を象徴する『肥後六花』をより身近に感じ理解を深める特別展示及び次世代への継承等</div></div><div></div></div>
	<div><div><div>・街なか全体(アーケード、公園等含む)を花と緑で彩り、新しい街並みの魅力発信と美しい街並みづくりにつなげる</div><div>・エリアマネジメント活動として民間の主體的な参加を促し、賑わいと交流の拠点とする</div></div><div></div></div>
＜水辺エリア＞ 水前寺 江津湖 公園一帯	《会場コンセプト：～魅力の発信～》 『水の恵みを享受する豊かな緑とそこに暮らす生き物の楽園への招待』 《展開イメージ》 ➤ 江津湖の湧水で育まれた自然豊かな生態系(生物多様性)を守り育てる団体やくまもと水守等による環境学習プログラムの展開 ➤ フェアを機にリニューアルを予定している植物園エリアで、植物や園芸を身近に体験、体感するとともに、魅力や話題性のある植物を展示する ➤ 水前寺成趣園における歴史・文化の発信と江津湖全域での回遊性の向上
	<div><div><div>・我が国の市街地では類を見ない規模の「水と緑のオアシス」として、自然の中での様々な体験を通じ、自然と人の共生、生物多様性の保全、景観美を考える契機につなげる</div></div><div></div><div>写真提供：グランドワーク三島</div></div>



＜まち山エリア＞ 立田山	《会場コンセプト：～ポテンシャルの最大化・顕在化～》 『自然豊かな立田山を学び、遊び、知り、未来に残す』 《展開イメージ》 ➤ フェア開催前より、既存の活動団体と連携し、楽しみながら立田山等の保全活動に関わる人材を発掘・養成し、フェア開催に向けた森林整備やフェア来場者をもてなすプログラムの企画づくりを実施 ➤ 「桜と菜の花で演出する“心の故郷の景色“」や「山菜やタケノコの春の味覚を楽しむ”懐かしく忘れられない故郷の味”体験」等、春の立田山の魅力をのんびり楽しむ、をテーマとした展開 ➤ 子ども向け、大人向け、遺跡・史跡好き等、様々な層の人々が楽しめる散策ツアーやネイチャーゲーム等、立田山の資源と価値を知り、身近で親しみやすい立田山の再発見につながるプログラムの実施等 ➤ ツリーハウスやクラフト作家による体験コーナー、自然を取り入れたカフェ等のイベント展開等による、新たな魅力を発信するクラフトエリアとしてのブランドイメージの確立

パートナー会場： フェアの多様な参画主体「フェアパートナー」による運営を基本とする会場	
周辺市町村	連携中都市圏（16市町村）等との連携による会場
スポット	駅・空港等のウエルカムスポット、観光地や名勝、住区基幹公園、行政施設等
学校等	関係する農業高校や専門学校をはじめ、市内の小学校・中学校等
エリア	商店街等の面的な場所
イベント	くまもとフェアの開催期間中や期間外(特に会期前)に開催される祭事やイベント
ショップ	熊本市内の飲食店、コンビニエンスストア、量販店、レンタカー店舗等の商店
企業・団体	くまもとフェアに賛同し、各種協賛を提供する企業・団体

6 事業計画

■ 新たなターゲットを確保して緑や花を使い続けて大事にする気持ちの醸成 ただ「見る」フェアではなく、緑の中に入って楽しんで好きになり生活の一部につながるフェアを開催	
(1)出展・展示計画	<div><div><div>➢ “熊本らしさ”を伝えるコンテンツを展開するとともに、全国の自治体や造園・園芸団体、花と緑の愛好家等の参画を募り、それぞれの情報・技術の展示や催事プログラムを展開</div><div>➢ 伝統技術やプロの技をもつ造園緑化、園芸など関係業界関係者から、特に街なかでは商店街や町内会、エリアマネジメント組織、ボランティア団体、学校との連携により実施</div><div>➢ 大使館や領事館、海外のガーデナーによる学生・女性コンペの審査</div></div><div></div><div><div>(例) 女性造園技術者や学生、海外のガーデナーが競演する『造園技能競技大会』の開催</div><div>(例)ベランダガーデンやエディブルガーデンなど様々な都市の緑が競演する『街なかガーデンコンテスト』の開催（入賞者作品の展示、体験コーナーの設置）</div></div></div>
(2) 植物調達計画	<div><div>➢ 市内や周辺市町村の生産団体等と連携・協力し、調達体制を構築</div><div>➢ 花き産業の活性化や市民への花きの普及を目的に、業界と連携したスキームを企画</div></div>
(3) 催事計画	<div><div>➢ 「水・緑・歴史・文化」をテーマとした行事・催事の企画や学会大会(国内、国際)の誘致</div><div>(例)熊本水遺産めぐりによる“くまもと”の緑、風土、歴史・文化の新たな発掘と発信</div><div>➢ 集客や魅力向上につながる地域のイベントとの連携・協働による企画や夜の演出</div><div>➢ 緑のまちづくりの模型づくりなど子供達も楽しく学べるワークショップ形式のイベントの企画</div><div>➢ 自然を体験できて防災意識の向上につながるイベントの企画</div></div> <div></div> <div><div>(例)「復興につながる花と緑の元気なまちづくり」や「肥後六花の“六花”を語る集い」等</div><div>(例)子供向けの『未来の熊本：緑と水のまちづくりイベント』</div></div>
(4) 会場運営計画	<div><div>➢ 各会場の既存の運営組織等との連携・協力・協働を基本とした運営管理</div><div>➢ さらに、各会場でフェア開催に賛同する多くの「フェアパートナー」を獲得し、主体的に運営に参画いただく</div></div>
(5) 広報宣伝計画	<div><div>➢ 関連イベントでの広報キャンペーン活動やパブリシティ活動を活用するとともに、SNSを活用し、開催までの準備情報を繋ぎながら、開催前からの機運を高める効果的な広報戦略</div><div>➢ 公共交通機関や旅行会社等と連携し、広域的な広報活動を展開 (例)・花ラッピング電車等</div></div> 
(6) 交通輸送計画	<div><div>➢ 既存の公共交通機関の積極的な利用促進 (例)・ホテルと連携による乗車券の発券</div><div>➢ 必要に応じ、臨時駐車場の設置やシャトルバスの運行を検討</div><div>➢ 旅行会社の協力により広域の観光名所、世界遺産等を巡る企画ツアー</div></div>
(7) 協働推進計画	<div><div>➢ 緑化の推進を通じて、協働によるまちづくり、地域活性化、子供達の育成等につながる機会や場の創出 《8 緑化推進事業計画に詳細記載》</div></div>

7 事業推進計画

(1) 事業推進体制	・フェア事業の円滑な推進を図るため主催者、経済団体、観光産業団体、交通輸送団体、花と緑の関係団体等により構成する実行委員会を設置
(2) 事業スケジュール	(別紙記載)
(3) 概算事業費	・会場構成や事業内容、交通対策等を勘案して、基本計画時に設定

8 緑化推進事業計画イメージ（フェア開催前と開催後を重視した取り組み）

■ 市民や事業者とともに歩む「緑と水のくまもとづくり」

フェア開催で最も重要な事項は「フェア開催により熊本の緑の何が変わるか」である。そこで、本市の緑化推進施策の現状と課題を踏まえた上で、フェア開催後を見据えたグリーンインフラ都市の構築や緑の基本計画の見直し等に取り組むとともに、フェア開催前から後にかけて、継続した取り組みを実施する。

施策・事業(例)	わかりやすい目標設定(例)	概要
未来を築く 人材育成事業	くまもと緑のマイスターの養成	熊本の歴史・文化の継承や新たなまちづくり活動を牽引する人材を育成し、各フェア関連会場など活躍の場の提供（保育園・幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、社会人まで広く対象とする）
協働と参画の 仕組みづくり	みどりのムーブメントの創出	多様な主体の参画による既存の緑化運動の充実や新たなみどりの取り組みの実施、企業のCSR活動等とも連携した支援の仕組みづくりや補助金制度の見直しを検討
花緑コンテストの開催	市民、団体、事業者、行政が力を合わせた「魅力的な森の都くまもとづくり」	「花や緑で彩られた賑わいあふれる通り、商店街、学校、町内会等」を目指し、華やかに装飾するコンテストを行い、年1回優秀者を表彰することで、継続的に花や緑を愛でる心を醸成
防災機能の強化	ハード面(都市機能)とソフト面(人材育成)の両面による機能向上	各会場の強みや資源を活かした防災機能の強化に寄与する取り組みを実施 (例)・樹木による防火帯を意識した公園づくり ・防災倉庫や井戸を活かした生活用水の確保
緑の再生	間伐材の再利用等による緑の循環	立田山や公園、道路等の樹木の管理・更新を効果的で効率的に行うマネジメント手法を、管理業者や市民の協力により実施 (例)・間伐材を再生利用したプランターによる街なかの花飾り

2018年度(現)：緑化推進事業の検討（来年度から行う具体的取り組みの検討）

2019～20年度：モデル事業の実施（3～4プログラム）

- イメージ）① 緑のマイスターの養成（子どもたちからスタートするいのちのリレー）
② 商店街の緑UP事業（商店街と連携した街なか花いっぱいPJ）等

2021年度以降：緑化推進事業の実施、継続的な取り組みのチェック